

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号： 99999  
研究種目： 奨励研究  
研究期間： 2022 ~ 2022  
課題番号： 22H04004  
研究課題名 混合研究法を用いた技能統合型ライティングの英語授業における教育的効果の検証

## 研究代表者

江下 陣 (Eshita, Jin)

青山学院高等部・青山学院高等部 英語科専任教員

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 460,000 円

研究成果の概要：本研究では、日本人英語学習者の技能統合型ライティングを行っている際のライティングプロセスを混合研究手法を用いて分析した。分析の結果、どちらのライティングタスクでも、主に語彙面に注意を向けてタスクを行っていることがわかった。独立型ライティングタスクでは、文法面に関連する処理が多く、技能統合型ライティングタスクでは、より難易度の高い語彙を使おうと、語彙を精緻にしようとするプロセスがより多く行われていた。アイトラッキングの分析からは、学習者が語彙について考えている時には、技能統合型ライティングタスクでは、リーディングの本文を見る傾向が見られた。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

技能統合型ライティングタスクはこれまでは、言語テストで使用されることが多かったが、実際の指導において、言語学習面にどのような効果があるのが議論されることが少なかった。特に学習者がタスクを行っている際のプロセスの研究については、これまで希薄であり、学習者がどのような言語処理を行っているのかわからない状態であった。本研究は学習者のライティングプロセスを分析するために、思考発話法・キーロガー・アイトラッキングという3つの研究手法を混合し、技能統合型ライティング遂行時のプロセスを調査することができた。

研究分野： 英語教育

キーワード： 技能統合型ライティングタスク 英語ライティング 英語教育 ライティングプロセス

## 1. 研究の目的

2022年より施行される高等学校新学習指導要領において、外国語科（英語）の授業では、4技能5領域を「統合」した授業実践が求められる。英語外部検定においては、TOEFL iBT や TEAP などを読んだものを要約したり自身の意見を書くなどの「技能統合」の力を測る問題が出題されてきた。一方で指導法としては、実証研究の蓄積は不十分であり、技能統合型ライティングの教育的効果を調査した研究は少ない。これまでの研究では、成果物として算出されたライティングの評価の側面での研究が大半を占め、タスク遂行時のプロセスを分析した研究は多くなく、ブラックボックスとされてきた。ライティングタスク遂行時のプロセスを分析することで、成果物を分析するだけでは理解できない学習者の学びの過程を可視化することができ、技能統合型ライティングがより深い読解や思考につながるのか、言語情報への気づきを促進させられるかなど、教育的効果を調査することができる。この点を踏まえて、本研究では、技能統合型ライティングの一連のプロセスを探求するプロジェクトの一端として、1年間でプロセスをモデル化し、学習効果の中でも、言語情報に対する気づきを第二言語習得研究の観点から調査する。この目的の実現のために、技能統合型ライティングを行っている際の言語習得に関わるリアルタイムなプロセスや思考を混合研究法で分析する。

調査方法としては、量的・質的研究技法を混合的に用い、正確な理解に導くことができるようにする。量的な研究として、学習者が技能統合型・独立型のタスクを行っている時の視線を Eye-tracking を用いて分析する。タスク遂行時に学習者がどこをどの程度凝視しているかを分析することで、言語情報のどのような点に選択的注意 (selective attention) が向いているかを計量的に知ることができる。次にライティングを行っている時の停止や修正を分析するために Key-stroke Logging を用いる。この技法はコンピューターのキーボードに打たれたプロセスを蓄積し、分析することを可能とする。停止の位置や長さ、連続して入力された語数 (P-burst) などから、停止時の思考の種類を推測することができる。これらの技法に加え、質的研究として、タスク終了後に思考過程の発話により、思考プロセスの分析を可能とする Stimulated Recall を実施する。この手法では、タスク後に Eye-tracking や Key-stroke などの映像を刺激として見せながら思考発話を促す。発話されたものはコーディングし、質的・量的にも分析する。混合研究法を用いることで、技能統合型ライティングのプロセスの中で、言語情報に対してより多く深い気づきが得られるかについて、正確に分析することができ、技能統合型ライティングの教育的効果の一端についての理解に繋がられる。

## 2. 研究成果

分析の結果、どちらのライティングタスクでも、学習者は主に語彙面に注意を向けてタスクを行っていることがわかった。また、独立型ライティングタスクでは、文法面に関連する処理が多く、技能統合型ライティングタスクでは、より難易度の高い語彙を使おうと、語彙を精緻にしようとするプロセスがより多く行われていた。

アイトラッキングの分析からは、学習者が語彙について考えている時には、技能統合型ライティングタスクでは、リーディングの本文を見るのが多く、文法事項について考える時には、自分がすでに持っている文法知識を使うため、本文を見るのが少ない傾向であることがわかった。

さらに、文章の質を分析した結果、技能統合型ライティングタスクの方が、語彙の多様性の値が高く、キーロガーによる分析で明らかになった、ポーズ（一定時間のライティングの停止）の頻度が多かったことがわかった。

本研究の結果より、技能統合型ライティングタスクは特に語彙について学習者に深く考えさせることができるタスクであることが明らかになった。また、語彙について考えている時にはインプットのリーディングにある言語情報を注視し、そのインプット情報を活用しようとしていることがわかった。

少人数の実験ではあったが、混合研究法を用いることで、1つの手法では明らかになりにくい事象について分析することができた。今後、より多くの技能統合型ライティングタスクに関する研究や指導実践が行われることが期待される。

今後の課題としては、より多い人数を対象に研究を実施し、学習者の熟達度や言語適正などがプロセスにどのような影響を与えるかなど、研究を発展させていきたい。特に、学習者のライティング力とプロセスの関係性を分析することで、良い書き手がどのようなプロセスでライティングをしているかなどを明らかにしていきたい。また、混合研究法の質的・量的研究の手法についても知見を深めていくことが望まれる。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 江下 陣
2. 発表標題 Exploring the Language-Learning Potential of Independent and Integrated Writing Tasks Using A Mixed-Methods Approach
3. 学会等名 上智大学英語教員研究会（ASTE）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------